

～劇場の活性化に向けて～ **さいたま舞台技術フォーラム 2013**

主催
公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
協力
公共劇場舞台技術者連絡会

舞台における映像の可能性

3月22日(金) 13:30～17:00 彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

映像は、いまやスクリーンを前にして見るものから姿形を変えて、舞台上においては、さまざまな目的で利用されるようになりました。シーンの背景として、パフォーマーの演技に絡む小道具として、あるいはもうひとりのパフォーマーとして。そこには、映像の舞台における役割に、無限の可能性さえ感じます。

この背景には、デジタル映像技術の目覚ましい進歩、プロジェクターの小型化、高輝度化などが考えられますが、さてその最新機能とは？また、次にプロジェクターが目指している形とは？一方、高性能なコンピューターが身近になって、メディアアートと呼ばれる新しい表現芸術も発展がめざましく、パフォーマンスと映像の融合がますます盛んになっています。いま、彼らクリエイターが望む舞台環境とは？そして我々舞台技術者は、舞台の表現手段の多様化とともに求められる第4の舞台技術分野として「映像」をどう捉えればいいのでしょうか。

劇場舞台技術者の有り様と、プロジェクターの導入や更新が検討されている劇場設備の方向性を考える上で、避けては通れない「舞台における映像」について、いっしょに考えてみませんか。

最先端の映像をライブで操るクリエイターとともに語る 明日の舞台技術

第一部 舞台における映像活用事例のソフトとハードの現状

- 1) ライブパフォーマンスにおける映像の可能性 飯名尚人氏：映像作家、演出家、プロデューサー
- 2) 劇場舞台における映像活用の現状 倉石和幸氏：新国舞台技術部 映像係長
- 3) 最新プロジェクターが活躍する世界の現場事例と未来の形 ... 齋藤定和氏：クリスティ・デジタル・システムズ日本支社
営業部アシスタントシニアマネージャー

第二部 舞台における映像の可能性と劇場技術者に求められるもの

- 4) メディアアートが広げる舞台の可能性 齋藤精一氏：株式会社ライゾマティクス代表取締役
- 5) パネルディスカッション『舞台における映像の可能性』 上記4氏ほか

日 時：3月22日(金) 彩の国さいたま芸術劇場映像ホール 受付：13:00～

参加費：無料

申し込み：別紙申込書に必要事項をご記入の上ファックスにて、あるいは必要事項をご明記の上メールにてお申し込みください。

FAX: 048-858-5782 / メール: tanno-s@saf.or.jp

お問い合わせ：TEL:048-858-5501 (丹野、市川、岩品、山内) / メール: tanno-s@saf.or.jp (丹野)